

4 関係団体等懇談会（聞き取り調査）の概要

（１）関係団体等及び開催日

	開催日	関係団体名	開催会場	参加人数
1	平成 16 年 9 月 9 日	御影地域づくり推進協議会	御影公民館	14
2	平成 16 年 9 月 13 日	清水町商工会（女性部、青年部）	保健福祉センター	17
3	平成 16 年 9 月 15 日	民生児童委員協議会	保健福祉センター	11
4	平成 16 年 9 月 28 日	老人クラブ連合会	老人福祉センター	15
5	平成 16 年 9 月 29 日	清水町内会連絡協議会	保健福祉センター	10
6	平成 16 年 10 月 5 日	十勝地区身体障害者福祉協会 清水町分会	保健福祉センター	2
7	平成 16 年 10 月 6 日	さくら家族の会	保健福祉センター	2
8	平成 16 年 10 月 6 日	特定非営利活動法人 清水町障害者児振興会連絡 協議会	保健福祉センター	3
		清水町ともに共同作業 所 清水町手をつなぐ親の会	保健福祉センター	
9	平成 16 年 10 月 18 日	J A 十勝清水町	J A 十勝清水町	9

(2) 主な懇談会内容

関係団体等	主な意見や話し合われた内容
御影地域づくり 推進委員会	<p>* 今までは、行政や社協がそれぞれ福祉事業に取り組んできた。 町民も意識を変えて、住みよい町にするために積極的に福祉に参加することが大事。町内会の取り組みとして、一人暮らしのところへの気配りや、子どもに「あいさつ」しようという運動を展開し町内の子どもには必ず声かけしている。自分たちの町子どもたちを守り育てる地域社会を作ることが大切と思っている。 子どもたちの問題は、家庭や学校の中で済ますということにはならない。地域全体で育てていかななくてはならないと考えている。</p> <p>* 近所の一人暮らしのお年寄りがいて、それなりの近所付き合いをされていて頻りに顔を合わせて話もしていたが、全然音沙汰がなく誰も様子がわからないでいたら、家の中で弱っていて、入院となった。いまや珍しいことではない。</p> <p>* 夜、火事とか泥棒とかお年寄りの家のチェックなど、タクシーを活用している町がある。郵便配達員に協力を要請していると思うが、もっと活用すべきと思う。</p> <p>* 「清水町あんしんネットワーク推進会議」に参加したが、参加した町内会が少なくがっかりした。古い町内会と新しい町内会では考え方が違う。町内会はそれぞれ特徴があり、町や社協の方でも町内会に踏み込んで情報収集などし研究を重ねて、町内会にアドバイスするぐらいになってほしい。</p>
清水町商工会 (女性分・青年部)	<p>* 一人暮らしの方は、不安な思いで暮らしている。除雪サービスなどに年齢制限がなくても良いのではないかな。</p> <p>* 若い人が働く環境と福祉を結び付けて考えてはどうか。</p> <p>* 高齢者に高齢者への福祉は現状で十分な面もあるので、これからは子どもに対する福祉施策に力を入れてはどうか。</p> <p>* 清水町の小さい子どもに対する施策は手厚いと思うが、結婚適齢期を迎えた世代に対する何らかの取り組みができないかな。</p> <p>* 高齢者には、公共施設の清掃などのボランティア活動に、もっとかかわってもらってはどうか。</p> <p>* ボランティア活動したい人の相談窓口を設置することで、人材の掘り起こしもできるのではないかな。</p>

	<p>* ボランティア活動をしていない人も多い。 一部の町民だけでなく、広く町民に働きかけてはどうか。</p> <p>* ボランティア活動は、地域や家族の理解が必要。 男性の参加をもっと求めたい。</p> <p>* 不用品の再利用の情報や相談窓口があれば、みんな利用するのではない か。保管場所に閉校施設など利用できないか。</p> <p>* エコマネーによる経済活動について。人と者の動きの中で、新たなビジネス チャンスも生まれてくるのではないか。 健康で快適な生活が送れることが福祉であるとする。</p> <p>* 高齢者の移送ボランティアや、タクシー利用の実態、商品の宅配について 話題となる。</p>
民生委員協議会	<p>* 高齢者下宿のようなものが、必要になってくるのではないか。</p> <p>* 生活支援制度を利用していない高齢者の生活の安全を支援することも必要 になってきている。</p> <p>* 色々な制度の狭間にいる人達への対応に苦慮している。</p> <p>* プライバシーがうるさくなってきていて、活動が制限されてきている。</p> <p>* 行政が参加してくると、行政の力が大きくなって、行政に都合よく方向づ けられている感じがする。少し放っておいてほしい。 補助金が絡んでくると、余計に感じる。</p> <p>* 自分の家族さえまとまらない時代に、長く活動を続けないと町は一つには ならないだろう。</p>
老人クラブ 連合会	<p>* 福祉といえば民生委員がいるが、民生委員だけでは手が回らないと思われ る。高齢者独居老人などの声かけに歩いている。</p> <p>* 隣近所の関係が希薄し、高齢者が孤立している。独居世帯に対して、見守 り活動について取り組む必要があるのではないか。</p> <p>* プライバシー保護の関係で、行政からの情報提供ができない状況にある。 民生委員も持ち掛けられないと、その家庭に踏み込めないところがある。 できれば持っている情報を、民生委員に提供してはどうか。</p> <p>* 老人クラブの例会や行事などに、あまり出てこない会員のところへは、訪 問をするようにしている。放置しておくとならぬ人がいる。</p>

<p>清水町町内会 連絡協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 社協「福祉係」の仕事または役割は、どのようなことをすればいいのかわからない。 * 町内会組織と行政、社協とのコミュニケーションは、これからいろんな意味で必要になると考える。町内会組織とは行政、社協とのコミュニケーションが足りないのではないか。 * 町内会の中でもコミュニケーションは大切で、行事のときはなるべく各世帯から出席をしていただき、子どもからお年寄りまで集まれるように努力している。 * 民生委員や町内会長また福祉係など、それぞれがもつ情報を共有し連携を密にする必要があるが、担当民生委員がわからないという人もいる実態がある。 * 町内会に参加しない世帯がいる。今後、世代が変わるにつれてまだ増える可能性がある。そのような状況のなかで「たすけあい」という話になるのか。 * 社協での「町内会たすけあい運動」を3ヵ年指定を受け実施したが、補助がないと、それまで展開されていた事業が継続されているところもあるが、大半は低迷または中止されてしまったのが現状である。 * 事業で行っていることを、広報を通じて町内に周知してほしい。 * この計画の意図またはこの国の情勢から考えると、行政が手出ししてきたことは、これからは地域の中でできるだけ自分たちの力でしなさいといっているようだが、一つのきっかけづくりのような気がする。計画がなくても、地域の問題は、その地域の中で解決していこうという力はあるし、それなりに人と人とのコミュニケーションはとれていると思う。
-------------------------	---

<p>十勝身体障害者 福祉協会 清水町分会</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 身障手帳を持っていることに、周囲は関心があるようだが、偏見があるように感じる。 現在、会員は280名位である。 できることはしていこうとボランティア活動にも参加している。 * 閉じこもらないこと、堂々としていること、困ったことを言わないこと、沈んだ気持ちも時間が経てば、醒めていくことを伝えている。クヨクヨしては駄目、会話が大事である。 * 将来的には会員が減っても、継続していくつもりである。 * 役員18名、その平均年齢は73歳である。 会員は会合に出てくるにも、交通手段がなく出かけられない。 家族に遠慮している。 * 新規に身体障害者手帳を発行された人がわからないため、入会の呼びかけができない。
<p>さくら家族の会</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 会員は6～7名。プライバシーのこともあり情報がつかめない。 * 家族会も高齢化してきている。社会参加もできず、親が亡くなった後、どうするか一番心配で不安がある。 * 事件が起きるたび、責任能力が問われ、なかなか仕事に就けず、職についているのは、ごく一部である。帯広にはグループホームがあるが、清水にはない。 * 三障害の中でも一番、制度が遅れている。公共交通の割引、年金など。 * 精神の病気は、集中力が持続できず、民間では働くということは難しい。(入退院を繰り返す) 人と合わせようとするストレスになる。 遠軽町では生活支援センターがある。溜まり場であり、就職、住宅、悩み新しい作業所に移りたいなど相談支援を行ったり、料理講習等を通じて仲間づくりも行っている。 話したくない、知られたくない人もいるので、なかなか活性化しない原因もある。

<p>清水町ともに 共同作業所</p> <p>手をつなぐ 親の会</p>	<p>* 「町の財政が大変なときに福祉ばかりというわけにはいかない。」 「好きでやっている」住民に言われ、がっかりすることもある。</p> <p>* 地域のパークゴルフやスポーツ大会で、子どもたちとの交流が深まるようになった。地域の人たちが、子どもたちに協力的。</p> <p>* 横の繋がり、情報が何より重要で、親たちは自己負担しながら懸命に、全道大会への研修など参加している。</p> <p>* 地域で暮らしたいといっても行き場がない。 【NPOを取得したメリット】</p> <p>* サークルでは、やってはいけない。法人化しきちんと位置づけないと潰れてしまう恐れがあると考えた。将来的なネットワークにつなげたい。</p>
<p>J A 十勝清水 そよ風の会</p>	<p>* 今のお年寄り、家族の世話になるよりも、施設を希望する人が多いが、子どもの近くで生活できるようになれば良いと思う。</p> <p>* 「いきいきサロン」など様々な形で、地域と高齢者が集まれる場づくりがされているが、誰が主体となって行っていくかが問題である。</p> <p>【そよかぜ会の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー2級の取得は、地域の介護力の強化を目的に行ってきたもので、農業従事者の家庭介護が目的であった。 ・資格を取った者が講師となり、介護教室を地域で開催し、地域の介護力の強化を行ってきた。現在は一通り参加が終了している。 ・2級資格については、引き続き取得を行っていく。 ・ボランティア活動は、資格取得者がその知識・技術を忘れないために行っている。 <p>* 2級資格取得者の活用を図ってみてはどうか？</p> <p>* 社協でも、ボランティア活動も、介護分野だけではなくオンブズマンとして、利用者の視点で福祉をチェックする役割など、時間と場所の制約が少ない環境等を担っていただけたらと期待している。</p> <p>* そよかぜの会のボランティア活動も、介護分野だけではなくオンブズマンとして、利用者の視点で福祉をチェックする役割など、時間と場所の制約が少ない活動等を担っていただけたらと期待している。</p>